

素材の音の聞きくらべ

展示場3階、化学のフロア「物質の探究」にある新展示「素材の音の聞きくらべ(写真1)」は、「音」に注意を向けてもらうという、ちょっと変わったものです。ステンレス、ガラス、ファインセラミックス、陶磁器タイル、花こう岩、サヌカイト、アクリル、ローズウッドといった8種類のさまざまな素材でつくられた板がならんでいます。上から木製のボールを入れると、これらの板に当たるようになっていきます。そのぶつかったときの音が展示です。その音はそれぞれ違う特徴をもつことに気づくでしょう。意外な音もあるかもしれません。だれかといっしょに来館したときは、かわりにボールを落としてもらい、自分は後ろを向いて音だけを聞き、どの素材かを当ててみるという、というのがおもしろい遊び方だと思います。

身の回りのものがどんな素材でできているのか、見たり触ったりしなくとも、叩いたときに鳴る音だけで予想できるのは、わたしたちの普段の生活でも経験していることですが、あらためて考えると不思議なことです。どんな高さの音がどれだけ響くかは、形状だけでなく、その素材や物質の硬さや重さといった性質によっても決まるのです。

素材と音をあつかうこのような展示は、全国的に例がないようです。ちょっと残念なところは、板が鳴る音だけではなく、ボールがケースの底にぶつかり転がる音も鳴ってしまうこと。よりよい展示のための試行錯誤は続きます。

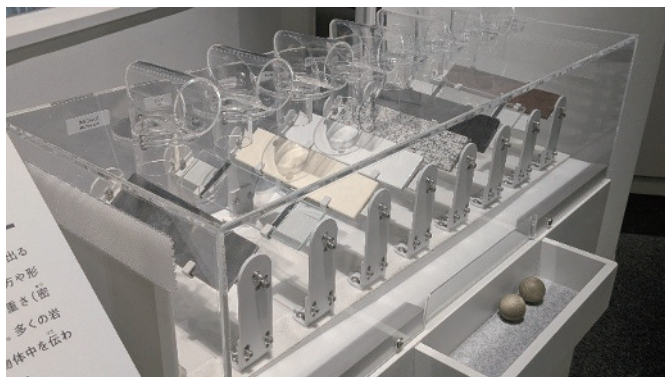


写真1. 素材の音の聞きくらべ

上羽 貴大(科学館学芸員)